

文部科学大臣表彰 科学技術賞受賞

ご案内

「弱みを強みに」

手書きをデジタルに

本書は、研究者・技術者を狙っている若い人々、研究や技術の成果をもってベンチャーを始めようとしている人々、大学で成果を出して産学連携によって実用化を目指している人々、企業において独自路線だけでなく大学を含めてオープンイノベーションを検討している人々、研究開発の壁にぶつかり何をすべきか迷っている人々、成果が地味でうまくアピールできないと落ち込んでいる人々、研究成果は出つつあるものの市場につながらなく打開策を模索している人々ためにとの思いで執筆致しました。



総じて言えば、狭い意味のベンチャーだけでなく、ベンチャースピリットを持った人々やその周りにいてそうした努力を支えたいと思っているリーダーの方々にお役に立てれば幸いです。

ビル・ゲイツは、将来、一つのスクリーンに向かってキーボードで作業するのではなく、たくさん人がたくさんスクリーンに手書きで対話するようになると予測しています。キーボードに支配される手の動きはその束縛から開放され、無限の情報宇宙を人間が指で自由に操れる時代がすぐそこまで来ています。80年代から紆余曲折して進んできた手書きの市場は、タブレットという書けるスクリーンを手に入れることによってようやく開かれてきました。

現在スマホ操作の基本となっているタッチスクロール技術は、アップルではなく我々の開発が最初でした（米国で特許取得）。指やペンの動きを拡大し、その移動速度でスクロールの割合を変える発明でした。

オンライン手書き認識は発展し、問題に手書きで解答し答合せすることも可能になりましたし、空中で指書きすれば、キネクトなどで検知して、VRの中をサーフすることもできます。また、オフライン認識にも取り組み、遺跡から出土した木簡の解読や、失われた言語であるベトナムの古語（チュノム）の認識などにも挑戦しています。そんな内容を書きました。

また本書は、産学官連携や優れた研究者・教育者を育てる戦略と実践についても書きました。そして、もちろん、自らの起業に相当の紙面を割きました。是非、企業人、大学関係者の方々にも読んでいただければと思う次第です。

我々が研究開発した手書き認識をミドルウェアとして、企業、ベンチャーの方々がアプリケーションやサービスに組み込み、より大きなイノベーションを起こしてくださることを夢みたいと存じます。

皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

東京農工大学 教授

中川 五 樹